

# 令和3年度第3回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会 会議録

1. 日時 令和4年3月25日(金) 13時30分～14時30分

2. 場所 古賀市地域活動サポートセンター「ゆい」

3. 出席者

(委員) 三木貞会長、大須賀理恵子委員、木村美幸委員、玖島昭二郎委員  
坂本直大委員、真鍋憲司委員、森本幸代委員、山田小織委員、結城俊子委員  
※欠席…柳武繁行副会長

(事務局) 健康介護課 課長：宮上洋子

健康づくり係 係長：吉田直美、梅谷佐和子、大嶋真貴、三原紀子、  
大山由紀子

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第16条第2項の規定により委員定数  
10名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

4. 傍聴者 なし

5. 議題

- (1) 令和3年度 地域活動サポートセンターの実績報告
- (2) 意見交換(2年間の委嘱期間を終えるにあたって)

6. 資料

【令和3年度地域活動サポートセンター活動実績報告(令和4年3月17日時点)】

7. 会議内容

## (1) 市あいさつ

- ・地域活動サポートセンター運営委員の2年間の委嘱期間最後である本会への参加御礼
- ・マスタープランができ、地域活動サポートセンターの方向性も明確になっていく
- ・コロナ禍が落ち着く傾向にあるが、引き続き感染予防を行いながら活動を行っていく必要がある
- ・ゆいの活動に感想等も含め、率直なご意見をいただきたい

(2) 会長あいさつ

参加の御礼

(3) 令和3年度 地域活動サポートセンターの実績報告

事務局より、令和3年度の地域活動サポートセンターの実績報告について説明

【質疑なし】

(4) 意見交換（2年間の委嘱期間を終えるにあたって）

- (委員) 地域の中でこの2年間地域イベントが中止になっていっている。米多比においては鍵盤ハーモニカや体操が行われているが、福祉会は開いていない。高齢者の方が、外出しないと衰えていくことを実感している。サポーターの方が増えて、地域活動が活性化していくことが大切。
- (委員) 運営委員をしたことで、ゆいを知ったことは自分のためによかった。あと2年で75歳になる。自分のことは、自分には見えない、年齢を重ねていくことを意識することができた。囲碁同好会は、コロナ対策をしながら活動を止めなかった。
- (委員) この2年間、コロナの影響で身体測定のボランティアもキャンセルが続いた。そんな中、「こがんよか元気度チェック」で家トレ・脳トレの活動に参加した。ゆいの活動を身近に感じることができた。インボディの測定が今年度から始まり、市民の皆さんの役に立ちたいと考えている。
- (委員) 食進会の活動に関わっている。男性の料理教室が開催され久々に参加した。参加者の男性が、久々に話したと言われていた。一人暮らしの男性の方もいて、これらの活動は他にも広げていくとよいと思う。
- (委員) 地域の福祉会の活動を、コロナ対策を行いながらも続けることができている。しかし千鳥校区の取組がほとんど中止となり、他の行政区との交流が途絶えた。高齢者にとっても支援者側も、行政区を超えた交流は大変刺激となり良い。
- (委員) コロナの影響で、地域に行くことも減り、薬局の中での業務が多くなった。今回委員になり、介護予防事業や地域活動の状況などを知ることができたことで、薬局に来られた方に地域活動の紹介などができるようになった。

(委員) 今回の報告で、コロナの影響で様々な実績が減少している中、ボールピックの参加者が増えている。これは、高齢者の身近な場所で開催したり、リモートで開催したりしている成果ではないかと思う。コロナ禍が落ち着いても行われたらいいと考える。リモートの普及が進めば、自宅でも受講できるなど新たな介護予防が期待できるのではないかと思う。

また、高齢者の参加意欲を増すためにも、ボールピックのように競争意識を高めるのも、広がる要因だと思う。

(委員) ゆいのリモートの導入は対応が早かった。大学で行うリモートの取組を見学に来られ、すぐにボールピックに導入されていて感心した。

学生も地域との交流ができていない。リモートでの交流は行ったが、コロナ禍が落ち着けば地域に出向き直接の交流ができたかと考えている。また、地域間で活動が活発なところとそうでないところの差がなぜ生じるのか、大学と一緒に考え探っていくのもよいのではないかと思う。

(委員) これまではゆいが何を行っているセンターなのか知らなかったが、今回運営委員になり必要性を感じた。サポーター活動に関しても、地域への呼びかけを行っていききたい。コロナ対策で気づくのは、今後公民館等にリモート環境を整えてほしい。リモートの講演を住民が身近な公民館等で聞けたりすると様々な取り組みに広がると思う。コロナ禍において、人と会うことの大切さを痛感する。

#### 【質 疑】

(委員) 鍵盤ハーモニカの出前講座を依頼する場合、鍵盤ハーモニカの用意は必要か。

(事務局) 鍵盤ハーモニカはセンターより貸し出しするため依頼者側の準備は必要ない。

(事務局) リモートについてのご意見について。ゆいでは、感染症対策を取りながらできるだけ活動を止めない対応を行ってきた。ボールピックの地域公民館開催や音楽の地域でのビデオ撮影など、高齢者に大変喜ばれ、参加者が増加している。今後、コロナ禍が落ち着いても、より身近なところで高齢者の活動を行えるように考えていきたいと考える。

(事務局) 説明の中で出てきた、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取り組みについて。本年度よりゆいが行ってきた介護予防業務と健康づくり係が行ってきた保健事業を一体となって取り組むこととなった。より身近なところにあるつどいの場と連携し、健康づくりの取組が行われることでより、健康づくりが推進されていくと思う。

#### (5) その他

市より

運営委員の任期が令和4年6月までであり、現委員は本日が最後の運営委員会であった。2年間の委嘱期間中のご尽力に対する謝辞。